

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
国語科	教科指導	授業を大切にさせる取組	毎時間の授業に必要な教材を確実に準備させるとともに、授業外の予習・復習に取り組みさせることができるような課題の設定に取り組む。				
		基礎的な漢字を身に付けさせる取組	全学年を通じて漢字小テストを継続的に実施し、基礎的な漢字を確実に身に付けさせる。日本漢字能力検定の受検を推奨し、受検意欲を喚起するための取り組みを行う。				
		主体的に学習に取り組ませる取組	国語を学ぶ意義を理解させ、授業の内外を問わず主体的に学習に取り組む態度を養う。				
地歴公民科	教科指導	社会全般の知識の定着	小・中学校からの学び直しを意識し、基礎的な知識や用語を身につけさせる。ICT機器の活用や写真資料などを活用し、視覚的にイメージしやすいような授業づくりを心がける。特に、教員の講義一辺倒にならないよう、生徒が自発的に考えられるような授業構成で進めていく。				
		社会参画への意識の向上	学習内容と現代社会の諸問題との結びつきを考え、地歴公民科目を学ぶことの意義を理解できるようにする。社会参画の一步となる主権者教育を充実させる。				
		主体的に学習に取り組む力を養う	学習姿勢の定着を第一とし、授業時の態度や学習ルールが守れるように声かけをし続けていく。知識の定着という土台をつくりつつ、社会参画への意識付けを促すために、レポート等の課題を行い、主体的に考える力を身につけさせていく。				
数学科	教科指導	授業規律の確保と基礎学力の向上	授業時間ごとに目標設定を行い、集中して授業に取り組める環境を作る。 学び直しの学習を取り入れ、年間を通して基礎学力の定着を目指す。積極的に家庭学習を行えるよう、計画的に課題やノートを提出させる。				
		進路希望実現のための学力を育成	習熟度別授業では、講座に応じて学習する内容・進度などを工夫することにより、入試にも対応できる学力の向上を目指す。				
理科	教科指導	新学習指導要領に対応した新たな学びの実現	生徒全員ができる・分ける授業を実現するために、授業支援アプリを積極的に活用し生徒主体の学習を目指す。また、テストだけでなく、パフォーマンス課題や振り返りなどを活用し、生徒の学びを様々な観点から評価することで新たな学びを実現する。				
		実験・観察の充実	教科担当者が実習助手と密に連携し、実験・観察を充実させ、生徒の興味・関心を引き出す。				
保健体育科	教科指導	運動の楽しさを知り、積極的に参加する態度を養い、運動能力とともに豊かな人間性の育成を目指す。	協力し合い授業を作るという意識を持たせることで、規律・協調性・責任感など社会で生きる力と主体的に取り組む力を育成する。指導したことに対しての達成度合いをフィードバックすることで、意欲や主体的に取り組む態度の向上を目指す。				
		知識・理解を深めるとともに、課題学習を実践する。	健康に対する知識を身につけ、調査・研究により健康に対する理解を深め、自らの意見を発表する能力を身につけさせる。				

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
芸術科	教科指導	多角的な視点から表現・鑑賞活動を行い、多様な価値観を育成する。	1年生において、半分以上の授業で生徒自身がタブレットを操作する活動(創作・鑑賞・意見交流等)を行う。2・3年生においてもそれに準じた取組を行う。				
		授業マナーの向上と学習意欲を高める指導を目指す。	毎時間、忘れ物チェック及び服装点検を行い、落ち着いたある授業環境を整える。				
英語科	教科指導	学習習慣の確立と基礎学力の定着	基本的な英語コミュニケーション能力に繋がる基礎的な内容の定着を図る。そのために、地道な努力と家庭学習の大切さを理解させ、主体的に学習する姿勢を養う。				
		進路目標の実現にむけた学力の伸長と向上	進路希望の実現に必要な基礎学力・コミュニケーション能力の伸張を図る。またその定着を目指して、授業以外に進学補習などを通じて継続的に学習する姿勢を育む。				
家庭科	教科指導	授業を大切に作る姿勢を育成する。	授業の理解度を確認するため、ノートやプリントの提出を徹底する。知識の定着を図るため確認の小テストを行う。				
		生活に必要な知識と技術を習得させ、主体的に生活を創造する能力を身につけさせる。	時代の流れに即した内容をできるだけ取り入れ、実生活に生かせるようにする。自己実現や自立に向けた力をつけるために、実験・実習などを取り入れて総合的に学習させる。伝統文化の体験を通して、豊かな感性を育み、心豊かに生きる力を身につけさせる。				
情報・商業科	教科指導	授業を大切にし、時間を有効に使う態度を育成する。ICT教育教材を利用できる能力を身につける。	毎時間、課題・授業プリントの提出を徹底する。遅刻・欠課を減らす指導、「欠課届」提出の徹底を行う。				
			授業前自習を実施し、タブレットを使用したICT授業の可能性を探る。またスマートフォンの利用を模索する。				
		商業社会・情報社会に参画するための情報活用能力の育成を推進する。	情報の理論的な理解、情報モラル育成を行う。 情報モラルを育成し、コンピュータ等を効果的に活用する能力の育成を行う。 個人、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高め、プレゼンテーション能力の向上を図る。				

学校運営協議会 による評価	
------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	
-----------------------	--